

(2) 社会教育

第2章	社会教育	第1節	ふるさと意識を育て地域づくりに参画する青少年教育の推進
施策1	ところとふるさと意識を育む体験活動の推進	担当課係	生涯学習課青少年・スポーツ係

1 推進方策および今年度の取組内容

●体験学習機会の充実	
<p>・だてっ子遊び学びの教室(全6回)、親子体験教室等の世代間交流事業を開催する。 特にだてっ子遊び学びの教室については、常に内容を検討しながら、子どもたちが興味を持つよう工夫を行い、新たな参加者の創出にもつなげる。</p>	
主な 取組 内容	R1 だてっ子4回(2回コロナで中止)、親子体験・バス利用(企画共同)・地図のWS(メセ共同)各1回実施
	R2 だてっ子2回のみ実施、親子体験などはコロナで中止。
	R3 だてっ子3回(3回コロナで中止 ※内、1回は申込者に説明書と材料配付)、親子体験1回実施
	R4 だてっ子6回、親子体験教室1回実施。
	R5
●市民団体等と連携した青少年事業の取組	
<p>・各種事業は、つどいサークル「ドロップ」、長生大学、伊達シニアクラブスポーツ少年団等の協力団体のもとに企画立案及び運営を行っている。事業を進めていくには必要不可欠な団体であるため、協力関係を維持継続し充実した青少年事業の開催を目指す。</p>	
主な 取組 内容	R1 あそびまして・ジュニアリーダー・姉妹都市、各1回実施
	R2 あそびましてがコロナで中止。ジュニアリーダー・姉妹都市交流がコロナで派遣中止。
	R3 あそびまして・姉妹都市交流がコロナで中止。フロンティアリーダーがコロナで派遣中止。
	R4 あそびまして・姉妹都市交流を各1回実施。フロンティアリーダー(オンライン開催)は参加者なし。
	R5
●青少年健全育成に関するサポート体制の充実	
<p>・青少年の非行防止等のため、青少年指導センター指導員とともに下校時間帯に合わせた巡回街頭指導のほか、夏季海水浴場キャンプ場、祭典時特別巡回を実施する。また、伊達市教護会等関係機関との諸会議への出席や合同研修会の開催を開催、広域列車添乗補導を実施する。</p>	
主な 取組 内容	R1 街頭指導304回、海水浴7回、祭典(伊達、相馬、大滝、武者)8回、研修会1回、列車添乗7回
	R2 街頭指導235回(海水浴11回含む)、列車添乗7回実施。祭典、研修会はコロナで中止。
	R3 街頭指導98回(海水浴15回含む)、列車添乗1回(3回コロナで中止)。祭典、研修会はコロナで中止。
	R4 街頭指導138回(海水浴10回含む)、列車添乗4回実施。祭典、研修会はコロナで中止。
	R5
主な 取組 内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5
主な 取組 内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎14歳以下人口に対する青少年を対象とした各種体験教室への参加者数の割合									
参加割合	7.82%	6.10%	4.85%	5.49%	8.12%	8.50%	9.00%	b	
参加人数	292人	226人	175人	194人	281人	285人	268人		
◎									

■取組評価指標 a:順調 b:概ね順調 c:やや遅れている d:遅れている -:評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年教育事業について、コロナ禍以降、初めて全て開催することができ、コロナ禍前と同等の参加があった。 ・青少年指導センターの活動においては、昨年度よりは巡回指導や列車添乗の回数は増となったが、コロナで引き続き低回数となった。
取組を進める上での課題と対応方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習機会の充実については、より多くの児童生徒に参加いただけるよう、内容を工夫していく。 ・市民団体等との連携については、引き続き協力関係を継続し、充実した青少年事業の開催を目指す。 ・青少年健全育成に関するサポートについても関係機関と連携し、コロナの緩和に合わせた巡回等を実施する。 	

■達成度評価指標 A・・・達成、完了 B・・・達成に向け進捗あり C・・・着手したが遅延している D・・・未着手
-・・・評価不可

予 算 書 上 の 細 目 名 等	款	項	目	事業(細目)名	決算額(千円)	摘要
	9	4	5	青少年教育事業	330	

第2章	社会教育	第1節	ふるさと意識を育て地域づくりに参画する青少年教育の推進
施策2	交流活動を通じた地域づくりに参画する人材の育成	担当課係	生涯学習課青少年・スポーツ係

1 推進方策および今年度の取組内容

●リーダー養成研修・交流活動事業による人材の育成	
・姉妹歴史友好都市シニアリーダー研修交流事業は姉妹都市である宮城県亶理町、歴史友好都市である宮城県山元町、柴田町、福島県新地町と継続実施する。交流を深めながら、レクや共同作業、集団行動を通じてコミュニケーションやリーダーシップの能力向上を図り、これからの地域づくりに必要な人材の育成を目指す。	
主な取組内容	R1 中学生2人、高校生1人、その他1人 計4人参加
	R2 コロナで派遣中止
	R3 コロナで事業中止
	R4 中学生4人、その他1人 計5人参加
	R5
●青少年育成団体と連携した事業の取組	
・上記事業等については、伊達シニアクラブスポーツ少年団の協力のもと実施しており、引き続き関係を維持していく。伊達市二十歳を祝う会事業(旧成人式)は二十歳を祝う会実行委員会を組織し、式典及び余興の企画立案・運営を行う他、青年団体である伊達フェイバリットクラブの協力も得て進める。	
主な取組内容	R1 あそびまして、バス利用でのレク指導(シニア)、成人式の運営(フェイバリット)にて協力を得た。
	R2 コロナで中止及び延期
	R3 あそびまして中止、成人式の運営にてフェイバリットの協力を得た
	R4 あそびまして実施、二十歳を祝う会の運営にてフェイバリットの協力を得た。
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎14歳以下人口に対する市及び関係機関が実施するリーダー研修講習会、世代間交流事業への参加者数の割合									
参加割合	1.34%	1.10%	-	-	1.18%	1.50%	2.00%	c	
参加者数	50人	41人	-	-	41人	50人	60人		
◎									

■取組評価指標 a:順調 b:概ね順調 c:やや遅れている d:遅れている -:評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
C	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー養成研修・交流活動事業による人材の育成においては、宮城県柴田町に中学生4名を派遣し、リーダーの礎を築くとともに活発な交流を図ることができた。 ・青少年育成団体との連携について、関係団体と十分な協議を行った上で事業実施ができた。
取組を進める上での課題と対応方針	
<p>・シニアリーダー研修において、シニアクラブに新たな団員の加入が数名あったものの、1団体では限界があるため、今後は中高生の一般公募の検討が必要。それにより団員の増、また、地域づくりに必要な人材の育成に繋がると思われる。</p>	

■達成度評価指標 A・・・達成、完了 B・・・達成に向け進捗あり C・・・着手したが遅延している D・・・未着手
-・・・評価不可

細目名等	予算書上の			事業(細目)名	決算額(千円)	摘要	
	款	項	目				
	9	4	5	青少年教育事業費	330		
	9	4	5	姉妹・歴史友好都市シニアリーダー研修交流事業	351		
9	4	5	二十歳を祝う会事業 ※R3まで成人式事業	250			

第2章	社会教育	第2節	共に支えあう地域づくりを目指す社会教育の推進
施策1	生涯にわたる充実した学習機会の提供	担当課係	生涯学習課社会教育係

1 推進方策および今年度の取組内容

●市民ニーズを的確に把握し、より受講しやすい講座の開設	
・アンケート等(毎講座後)を実施し、市民ニーズを反映した多種多様な講座を開設	
主な取組内容	R1 市民講座7講座中、平日・1講座、夜間土日・5講座、大滝区開催・1講座を開催(他1講座コロナで中止)
	R2 市民講座6講座中、平日・2講座、大滝区・1講座を開催(他3講座コロナで中止)
	R3 市民講座は4講座中3講座(1講座中止)を、市民カレッジは4講座中2講座(2講座中止)を開催
	R4 文化・芸術鑑賞講座1講座、市民カレッジ5講座を開催
	R5
●民間企業などのノウハウを活かした学習内容の充実	
・カルチャーセンター指定管理者等と連携し、人気のある講座を連続して実施するなど、民間ならではの柔軟な事業を実施	
主な取組内容	R1 指定管理者において絵本の読み聞かせ(30名)、陶芸教室×2回(18名)の3講座を実施
	R2 指定管理者において、陶芸教室×3回(30名)、マスクストラップ作り(5名)の2講座を実施
	R3 指定管理者において、4講座(色鉛筆、粘土、クリスマスリース、正月飾り)を実施
	R4 指定管理者において、8講座(古典、アロマ、防災、絵画、クリスマスリース、正月飾り、陶芸、家庭菜園)を実施
	R5
●サークル団体の会員増や活性化のための広報活動の充実	
・市民サークルまつりの参加希望団体募集を広報誌で実施。市民総合文化祭や市民サークルまつりなどの事業について、更なる市民周知を図るため、広報誌などの媒体を用いて事業の周知を実施	
主な取組内容	R1 広報誌、facebook、市HP、ポスターによる周知や、事業実施日に参加者によるチラシ配布等の実施
	R2 文化祭・サークル祭りの両事業がコロナで中止
	R3 文化祭は規模縮小で実施、サークルまつりはコロナで中止
	R4 文化祭・サークルまつりの両事業を規模縮小で実施
	R5
●男女共同参画の推進	
・胆振女性リーダー養成研修や男女共同参画教養講演会への参加を促進するため、魅力ある事業内容を検討するとともに、広報誌等による周知を実施。	
主な取組内容	R1 「あらうす」との共同開催による講演会を実施。胆振女性リーダー養成研修に3名派遣(うち男性1名)
	R2 講演会は規模縮小で実施(20名)、女性リーダー養成研修はリモート開催に変更のため不参加
	R3 教養講演会はコロナで中止、胆振女性リーダー養成研修(オンライン開催)に1名参加
	R4 教養講演会を実施(68名)、胆振女性リーダー養成研修(オンライン開催)に5名参加
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎推計人口に対する市が主催する市民講座・市民カレッジの受講者数の割合									
受講者数	249人	481人	81人	242人	373人	292人	306人	a	
人口比受講者	0.72%	1.40%	0.24%	0.74%	1.16%	0.90%	1.00%		
◎									

■取組評価指標 a:順調 b:概ね順調 c:やや遅れている d:遅れている -:評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
A	文化・芸術鑑賞講座1講座中1講座の開催、市民カレッジは5講座中5講座の開催と予定していた講座数を実施することができたため。
取組を進める上での課題と対応方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの市民に参加いただけるよう、周知方法を工夫していく。 ・アンケートによるニーズ把握から、アンケートの回答を企画内容に反映できるか検討していく。 	

■達成度評価指標 A:達成、完了 B:達成に向け進捗あり C:着手したが遅延している D:未着手
-:評価不可

予 算 書 上 の 細 目 名 等	款	項	目	事業(細目)名	決算額(千円)	摘要
	9	4	2	文化・芸術鑑賞講座開設事業	126	
	9	4	2	だて市民カレッジ開設事業	146	
	9	4	2	男女共同参画推進事業、胆振女性リーダー養成研修事業	46	

第2章	社会教育	第2節	共に支えあう地域づくりを目指す社会教育の推進
施策2	高齢者が健やかで豊かに学ぶ機会の創出	担当課係	生涯学習課社会教育係

1 推進方策および今年度の取組内容

●長生大学の事業内容のニーズ把握による学習メニューの充実と積極的なPR強化	
・事業内容のニーズ把握の手段として、在学生に対するアンケート等を実施し講義内容の充実を図る。長生大学事業について、広報誌等を活用し事業の周知を図る	
主な取組内容	R1 受けてみたい講義(分野)についてアンケートを実施、学生募集を広報誌で周知
	R2 コロナ禍により伊達4回、有珠5回の学習日、学習外活動は全て中止
	R3 長生大学の事業を再開し、伊達10回、有珠10回の学習日、3回の学習外活動を実施
	R4 長生大学の事業は、伊達21回、有珠21回の学習日、9回の学習外活動を実施
	R5
●高齢者の参画が期待される、コミュニティ・スクールや放課後子ども教室などの活動内容についての情報提供	
・放課後子ども教室等が希望する事業と、長生大学として提供できることについて、事業推進に当たり互いに情報共有できるような仕組みを構築	
主な取組内容	R1 「コミュニティスクール」について知ってもらうために、学生に対し学習会を実施
	R2 放課後子ども教室事業がコロナで中止
	R3 放課後子ども教室事業がコロナで中止
	R4 放課後子ども教室事業は再開の目途が立たないため休止
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎65歳以上人口に対する長生大学学生数の割合									
学生数	235人	254人	222人	198人	172人	252人	282人	c	年齢別人口統計
学生数割合	1.88%	2.02%	1.77%	1.59%	1.39%	2.00%	2.30%		
◎									

■取組評価指標 a:順調 b:概ね順調 c:やや遅れている d:遅れている -:評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
C	長生大学事業において、学習日は伊達及び有珠それぞれ21回を開催、学習外活動は9回の開催と概ね実施することができたが、学生数の減少に歯止めがかからないため。
取組を進める上での課題と対応方針	
・新型コロナウイルス感染症の影響から年々学生数が減少傾向にあることから、新たな学生確保のため長生大学事業の活動をよりPRしていく必要がある。	

■達成度評価指標 A・・・達成、完了 B・・・達成に向け進捗あり C・・・着手したが遅延している D・・・未着手
-・・・評価不可

予 算 書 上 の 細 目 名 等	款	項	目	事業(細目)名	決算額(千円)	摘要
				9	4	

第2章	社会教育	第2節	共に支えあう地域づくりを目指す社会教育の推進
施策3	家庭・地域の教育力の向上		担当課係 生涯学習課社会教育係

1 推進方策および今年度の取組内容

●地域住民が、コミュニティスクールや放課後子ども教室等と関わり合いながら子供を育てる地域基盤の強化	
・放課後子ども教室事業などに地域住民が参加して貰えるよう、自治会やPTAなどの地域住民に対して事業内容などの周知活動を実施	
主な取組内容	R1 伊達西小放課後子ども教室において、伊達西小おやじの会による事業を実施
	R2 放課後子ども教室事業がコロナで中止
	R3 放課後子ども教室事業がコロナで中止
	R4 放課後子ども教室事業は再開の目途が立たないため休止
	R5
●関係機関と連携し、家庭教育に関する啓発活動の実施	
・広報誌等による家庭教育の啓発活動を、関係機関と連携し実施	
主な取組内容	R1 家庭教育の重要性について、広報誌で啓発
	R2 家庭教育の重要性について、広報誌で啓発
	R3 家庭教育の重要性について、広報誌で啓発
	R4 家庭教育の重要性について、広報誌で啓発
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5
主な取組内容	R1
	R2
	R3
	R4
	R5

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎放課後子ども教室実施小学校・義務教育学校数(星の丘小学校は除く。)									
学校数	1校	2校	2校	—	—	4校	全校	—	事業再開の 目的が立たない ため事業休止

■取組評価指標 a:順調 b:概ね順調 c:やや遅れている d:遅れている —:評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
—	放課後子ども教室事業を再開の目的が立たないことから休止としたため。
取組を進める上での課題と対応方針	
・放課後子ども教室事業を休止としたため、今後は「学習の日」を放課後児童クラブの日課中の自主学習の時間で、また、「遊び・交流・体験の日」については青少年教育事業の枠組みを活用しながら、発展的に事業を進めていく。	

■達成度評価指標 A・・・達成、完了 B・・・達成に向け進捗あり C・・・着手したが遅延している D・・・未着手
—・・・評価不可

予 算 書 上 の 細 目 名 等	款	項	目	事業(細目)名	決算額(千円)	摘要
				9	4	

第2章	社会教育	第2節	共に支えあう地域づくりを目指す社会教育の推進
施策4	図書館機能の充実		担当課係 図書館業務係

1 推進方策および今年度の取組内容

●「伊達市立図書館運営基本方針」に基づく図書館の機能強化

コロナ禍にあっても市民の期待・要望・関心に応えるため、館内の飾りつけの充実や本の表紙を見せる配架を増やすなど利用しやすい館内整備に努める。小学生から高校生までを対象とし学校と連携した「みんなのオススメ本POPコンテスト」を前年度から継続実施するなど読書普及の促進を図る。

主な取組内容	R1	利用者の需要に即した館内整備。「本の森」及び「みんなのオススメ本POPコンテスト」の実施。
	R2	季節感ある装飾、司書のお薦めコーナーの拡充。「みんなのオススメ本POPコンテスト」実施。
	R3	図書資料の差替・除籍等。利用者に沿った館内整備。「みんなのオススメ本POPコンテスト」の実施。
	R4	本を選びやすい著者名見出し等の館内整備の推進。「みんなのオススメ本POPコンテスト」の実施。
	R5	
主な取組内容	R1	
	R2	
	R3	
	R4	
	R5	
主な取組内容	R1	
	R2	
	R3	
	R4	
	R5	
主な取組内容	R1	
	R2	
	R3	
	R4	
	R5	

2 施策の目標設定における取組状況・評価

	目標設定年度 (H29)	R1	R2	R3	R4	中間年度 (R5)	目標年度 (R10)	取組評価	出典等
◎ 人口に対する図書館の年間利用者数の増加									
年間利用者数	46,516人	40,859人	30,405人	27,485人	33,684人	46,431人	45,963人	b	
年間利用者数の割合	134.52%	121.40%	91.56%	84.31%	104.88%	142.97%	150.00%		
◎									

■取組評価指標 a:順調 b:概ね順調 c:やや遅れている d:遅れている -:評価不可

3 施策に対する達成度評価

達成度評価	評価の理由
B	利用者が本を選びやすい著者名見出し等の館内展示の整備を推進したほか、春と秋の読書週間等のイベントを継続実施するなど読書活動の普及を推進した。また、臨時休館が無かったことから、年間利用者も増加し、1日平均利用者数も、令和3年度120.55人から令和4年度120.73人に増加した。
取組を進める上での課題と対応方針	
利用者のニーズに合わせて図書資料の整備や各事業において読書の普及活動を強化し、さらなる図書館機能の充実を図っていく必要がある。また、新型コロナの第5類引下げによる閲覧席や滞在時間の制限の解除に伴い、利用者が滞在しやすい環境の整備を推進していく。	

■達成度評価指標 A・・・達成、完了 B・・・達成に向け進捗あり C・・・着手したが遅延している D・・・未着手
-・・・評価不可

細目名等	予 算 書 上 の	款 9	項 4	目 7	事業(細目)名	決算額(千円)	摘要	POPコンテスト 報償費 (図書カード)
					読書普及促進事業	17		